

〔公益6〕この法人の事業に対する理解の普及

6-1 機関誌の発行、情報公開

<事業計画>

情報通信技術活用による教育改善の促進、情報教育の充実と普及、情報環境の整備促進、大学連携・産学連携による教育支援等の振興・促進、大学教職員の職能開発及び大学教員の表彰について理解と協力を得ることを目的に、機関誌「大学教育と情報」の発行とインターネットによる発信を行う。また、大学関係者に直接理解を求めため、関東以外の地域で地域別事業活動報告交流会を継続実施する。

<事業の実施状況>

「事業普及委員会」及び「事業普及委員会翻訳分科会」を継続設置して、機関誌の発行、海外情報の翻訳、インターネットによる情報公開・配信・意見収集、事業活動報告交流会を通じて、本協会が実施する公益目的事業の理解の普及を行った。以下に、委員会及び事業活動報告交流会の活動を報告する。

事業普及委員会、翻訳分科会

事業普及委員会は、平成26年4月26日、6月27日、10月31日、27年1月23日に平均4名または5名が出席し、4回開催した。公益目的事業の理解の普及を推進するため、年間4回の機関誌「大学教育と情報」の発行とホームページへの情報公開を実施した。また、翻訳分科会は会議を開催せず、事業普及委員会で選定の米国EDUCAUSEのMOOC導入に関する報告書について翻訳分科会委員が分担して翻訳を行った。以上の他、公益目的事業の理解の普及を図るため事業活動報告交流会を地域別に実施した。

(1) 機関誌「大学教育と情報」の発行

6月、9月、12月、3月の4回に亘り、80頁の規模で全国の大学・短期大学、文部科学省・関係団体、賛助会員を対象に以下の通りの方針に基づき14,600部発行している。

- ① 公益目的事業に対する理解の促進を図るため、事業活動の内容に加えて大学における教育改善、情報教育への取り組み、国や関係機関の審議動向、マスコミ報道などを踏まえ、時宜に適ったインパクトのある情報を提供するようにした。
- ② 上記の方針に沿って、特集では教育の質的転換を実現するアクティブ・ラーニングを理解いただくため、「アクティブ・ラーニングの実質化に向けて」として2号に亘り多様な授業形態の実践事例を紹介することにした。また、反転授業を取り入れた日本型MOOCの意義・特徴・組織体制、MOOC講座の可能性などを理解するため、「オープンな学びを提供するJM00Cの取り組み」を掲載することにした。また、毎日のようにメディアの話題となっているネットを介した標的型攻撃の脅威に対して、関心の薄い大学に気づきを働きかけるため、「サイバー攻撃防衛のための取り組み」をとりあげることにした。
- ③ また、「教育・学修支援への取り組み」では、ICTを活用した教育・学修支援への取り組み状況及び教育事例等を取りあげることにした。
- ④ 「人材育成のための授業紹介」では、分野別授業におけるICTの活用事例を紹介することにしてはいるが、情報活用力を身に付ける情報教育の重要性に鑑み、情報リテラシー教育についても紹介することにした。

⑤ 海外ニュースは、即時性・話題性のある内容を翻訳あるいは抄訳して紹介することにした。

以下に、平成26年度に4回発行した目次を掲載する。

大学教育と情報（2014年度No.1：平成26年6月）

- ・巻頭言「ICTと大学教育」 川瀬 正明
- ・特集「アクティブ・ラーニングの実質化に向けて」
「アクティブ・ラーニングとはなにか」 山地 弘起
「「学ぶ」から「できる」へ～経営系科目のアクティブ・ラーニング～」 西村 宣彦
- ・人材育成のための授業紹介：情報リテラシー教育
「クラウドツールとFITness30を取り入れた情報リテラシー演習」 田村 恭久
「習熟度別の情報リテラシー教育の一事例」 和田 悟
「全学向け情報モラル教育の現状とアクティブ・ラーニング導入による教育効果」 白澤 秀剛、丸山有紀子
- ・教育・学修支援への取り組み
立正大学
- ・各事業への参加募集
- ・私情協ニュース
- ・事業活動報告
- ・賛助会員だより

大学教育と情報（2014年度No.2：平成26年9月）

- ・巻頭言「地域連携とSNS」 三枝 幸文
- ・特集「アクティブ・ラーニングの実質化に向けて」
「学生の学修意欲を刺激する授業づくりの試み～精神看護学のアクティブ・ラーニング～」 花田 裕子、永江 誠治
「創価大学経営学部のアクティブ・ラーニングの展開と課題」
「大規模授業でのアクティブ・ラーニングとICTの活用」 鈴木 久男
「アクティブ・ラーニングとしてのPBL」 山田 和人
～『同志社大学プロジェクト科目』（テーマ公募制・教養教育科目）の試み～
「KALSにおけるアクティブラーニングの取り組み」 中澤 明子
～『アクティブラーニングで自然科学を楽しむ』の紹介～
「アクティブ・ラーニングの質を高める学習支援と学習環境のデザイン」 岩崎 千晶
- ・人材育成のための授業紹介：歯学
「電子ポートフォリオシステムのチーム医療教育への活用」 片岡 竜太
「ICTを用いたチーム基盤型学習（TBL）の開発と導入」 葛城 啓彰
「総合学力試験CBTシステムとWeb自己学修の統合型歯学教育支援システム」 二瓶 裕之、谷村 明彦
越野 寿
- ・教育・学修支援への取り組み
千葉工業大学
- ・各事業への参加募集
- ・賛助会員だより

大学教育と情報（2014年度No.3：27年1月）

- ・巻頭言「日本の医学教育の行き着く先にあるもの」 田尻 孝
- ・特集「オープンな学びを提供するJMOOCの取り組み」
「JMOOCを理解するために」 福原 美三
「JMOOC講座「俳句一十七字の世界」を担当して」 川本 皓嗣
「放送大学MOOC「NIHONGO Starter（にほんご にゅうもん）」の開発」 山田 恒夫

- ・人材育成のための授業紹介：物理学
「多様な学習履歴を持つ学生に対する物理学教育」 寺田 貢
「『物理がとても嫌い』な学生に対するリメディアル教育」木下 順二
「ICT利用の授業外学習を活用した文系向け物理学授業の試み」 栗田 和好
- ・教育・学修支援への取り組み
聖徳大学
- ・各事業への参加募集
- ・事業活動報告
- ・賛助会員だより

大学教育と情報（2014年度No.4：27年3月）

- ・巻頭言「人と人をつなぐ ICT」 郡司 隆男
- ・特集「サイバー攻撃防衛のための取り組み」
「サイバー攻撃の情報共有活動とその成果」 独立行政法人 情報処理推進機構
「メール添付ファイルによる攻撃の防御訓練実践例」 広島県庁
「インターネット・バンキングへの攻撃手口と考えられる対応策」 一般社団法人 全国銀行協会
- ・海外ニュース「学習とMOOC：ELIフォーカスセッションの報告
Learning and the Massive Open Online Course :
A Report on the ELI Focus Session」
- ・人材育成のための授業紹介：統計学
「私立文系学部統計学における実験を用いた学修」 今泉 忠
「データ活用力の育成を意識した統計教育」 山口 和範、大橋 洗太郎
大川内隆朗、丹野 清美
「JMOCプラットフォームgaccoの講座『統計学I：データ分析の基礎』について」 酒折 文武
- ・教育・学修支援への取り組み
別府大学・別府大学短期大学部
- ・各事業への参加募集
- ・私情協ニュース
- ・事業活動報告
- ・賛助会員だより

(2) インターネットによる情報公開・配信・意見収集

本協会の公益目的事業の活動を社会に紹介し、理解の普及を図るため、ホームページの枠組みを事業活動に連動できるよう、「望ましい教育改善モデルの探究」「情報教育のガイドライン」「高度な情報環境づくり」「大学連携・産学連携の推進」「教職員の教育力向上」「高度情報化の支援」「分野別研究発表の検索」を設定し、事業の活動報告としての成果物及び各種委員会の議事概要を公開している。また、事業ごとにインターネットを通じて意見・要望を収集するための入力サイトを設け、事業の点検・評価・改善を行っている。

6-2 事業活動報告交流会の実施

公益事業に対する理解の普及と協力を得ることを目的に、全国の大学・短期大学の関係者を対象に12月2日に九州地域（会場：福岡大学）、12月8日に東北地域（会場：東北学院大学）、12月9日に北海道地域（会場：北海学園大学）、12月17日関西・中四国地域（会場：関西大学）にて向殿会長、事務局長が出向して実施した。4地域で59大学、19短期大学、183名が参加した。特徴としては、78校183名の内、非加盟校が36校58名と32%になっている。また、参加者の内、教員は21%の38名で職員が大半となっていた。